

令和3年度 長期留学報告

所属・職名 外国語学部・准教授

氏名 大野 英樹

留学先 カナダ Canada

目的 言語学研究（英語学および日本語学）

期間 令和3年9月1日～令和4年9月8日

※2年以内に本学機関紙、もしくは学会誌等に研究成果を発表する。

カナダ Canada

- 首都： オタワ
- 面積： 998.5万平方キロメートル（世界第2位の広さ，日本の約27倍）
- 人口： 約3,699万人（2021年）
- 公用語： 英語，フランス語
- 国王： チャールズ3世（ただし、総督が国王の代行を務める）
- 首相： ジャスティン・トルドー
- 政治： 立憲君主制
- 通貨： カナダ・ドル
- 国祭日： Canada Day（建国記念日）



留学都市 Victoria

- 位置： ブリティッシュ・コロンビア州の西部にあるバンクーバー島の南端部
- 面積： 19.47平方キロメートル
- 人口： ヴィクトリア市のみでは約9万2000人（2021年）
周辺都市を含む都市圏（グレーターヴィクトリアと呼ばれる）約40万人
- 特徴： ブリティッシュ・コロンビア州の州都。イギリス領時代の面影が残る街並みは大変美しく、観光地として人気がある。カナダの中でも最も温暖な地域であり、冬でも雪はほとんど降らない。

所属機関：ヴィクトリア大学

- 名称： University of Victoria (UVic)
- 設立： 1963年
- 面積： 約160ヘクタール（PCラボ、図書館、運動ジム、学生寮など、素晴らしい教育環境が整備されている。）
- 学生数： 約22,000人
- 留学生： 世界約120ヶ国からの留学生がいる。

担当教員 Dr. Martha McGinnis

- Dr. Martha McGinnis
- 言語学科主任
- ミニマリスト統語論 (Minimalist Syntax) や分散形態論 (Distributed Morphology) を専門とする。
- 主な論文は、Agree and fission in Georgian plurals. In *Distributed Morphology today: Morphemes for Morris Halle*: 39-58 (2013, MA: MIT Press) など。

定期的活動

- 担当教員の大学院の授業 (Current Issues in Generative Grammar) に参加
- 招聘スピーカーの講演聴講 (Noam Chomsky氏の講演に参加させていただくという貴重な機会を得ることができた)
- 言語学を専門とする大学院生たちとの交流
- 担当教員によるTutorial (統語論分野)
- 図書館での文献資料の収集、および研究活動
- 英語母語話者へのインタビュー (担当教員、語学教員、院生、学部生らを対象)
- 日本語指導ボランティア (Japanese Café に日本語母語話者として参加)

研究成果

- 論文「強意再帰代名詞の機能的分析」
『高見健一先生退職記念論文集（仮称）』
(2023年3月に開拓社より刊行予定の論文集に収録される)

総括

ヴィクトリア大学での1年間、私は言語学（英語学および日本語学）の研究活動に従事した。私が取り組んだトピックは“Quantifier Movement in English and Japanese”（「日英語の数量詞移動」）であったが、今回の留学期間中には多くのネイティブ・スピーカーの方々に英語の言語データについてインタビューを行うことができた。とりわけ、ヴィクトリア大学のEnglish Language Centreの語学インストラクターの先生方、言語学（統語論）の専門家、大学院の授業で知り合った学生たちから、貴重なコメントや示唆を多く賜ることができた。彼らとの交流を通し、日本国内にいるときには気づかなかった発見がいくつもあり、数量詞の移動以外のトピックにも研究の幅を広げることができるようになった。この成果として、強意再帰代名詞の文中での分布に関して、「強意再帰代名詞の機能的分析」という論文を1本書き上げることができた（2023年3月刊行予定）。また、数量詞の移動現象（いわゆる「数量詞遊離」）を、「強意再帰代名詞」や「名詞句から外置」という他の言語現象と比較し考察するという、新しい視点からの分析に現在取り組んでいる。このような視点を持つことができたのは、現地で多くの方々との交流からヒントを得ることができたためである。在外研究の意義を大いに感じることもできた1年であった。このような機会を与えてくださった拓殖大学の皆さまに心より感謝の意を表したい。ありがとうございました。